

# 保育実習における手引き作成に関する研究

幸 順子・秋田 房子

## A Study of Creating a Guide to Childcare Practices

Junko YUKI and Fusako AKITA

### I はじめに

保育界は、今日激動の時期を迎えている。保育所と幼稚園の統合が叫ばれて、認定子ども園が生まれようとしており、保育所保育は、幼稚園の幼児教育と合わせ統合的視野でとらえることが必要になってきている。また、民営化の動きやコスト削減も激しい。さらに幼児教育と小学校教育のつながりの充実も叫ばれ、保育所、施設共に内容の高度化、家庭支援や外部の第三者評価の導入など保育の強化・充実が求められている。

このような状況の中、保育士養成においては、保育の仕事を世間に認められる国家資格の専門家として、質の高い、多様な保育ニーズに対応し得る保育士の養成に加え、現場において実践の研究を深め成長し続け、組織の一員として協働しかつ反省的实践能力を持ち合せた保育士の養成がますます期待されている。

このような保育の実践家を育む第一歩として、保育実習では、全教科で学んだ理論を実習の実践現場で確かめ、理論と実践の相互関係を体験的に学び、実習記録から実践をふりかえり、反省、評価、修正する実践能力を身につけていくことが求められている。これは保育実習指導の重要な課題である。

### II 研究の目的

本研究では、幸・秋田(2005)に引き続き、「保育実習の手引き」を作成し、その指導の視点を明らかにすることにした。すなわち、本研究の目的は、本学科の保育実習のあり方について明確にし、保育実習(保育所・施設)、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲの事前事後指導に活用できる「保育実習の手引き」を作成することである。具体的には、「手引き」の項目として、Ⅰ実習のあらまし、Ⅱ実習の準備、Ⅲ実習中、Ⅳ実習(終了)後、Ⅴ記録様式、Ⅵ引用・参考文献、Ⅶ資料の7項目から構成されるが、その内容の視点と学習のポイントについて検討する。

さらに、学生自身が、実習の基本的・総合的な考え方とその取り組みについて手引を参考とし、主体的に実習を行い、また実習後の振り返りができるよう作成を試みた。

### Ⅲ 研究の方法

研究期間は、2005年4月1日から2005年12月20日まで。研究方法としては、これまでの実習指導を反省、考察し、実践現場での聞き取りと文献研究などと合わせて総合的に検討し、幸・秋田(2005)を手立てに「保育実習の手引き」を作成した(文献1～16参照)。作成した「手引き」は実習の事前事後指導に活用し、さらにそれを反省、評価、検討する予定である。

### Ⅳ 研究の結果

#### 1 保育実習の手引き作成の目的

保育士が国家資格になり、現場からは保育士としての専門性を身につけ、時代のニーズに対応し得る、多様な保育サービスや親の育ちにも対応できる質の高い保育士の養成が求められている。一方、今日の学生に対しては、保育士としての専門性だけでなく、常識ある社会人としての心構え、人間性の豊かさを身につけるよう保育士養成校は指導をしていかなければならないという課題がある。

従って保育実習指導の教科では、実習生が、全体としてどういった実習の課題、目標を持ち保育士としての専門性を身につけるか、また事前事後指導の役割・ねらいは何であるかを明らかにするだけでなく、社会人としての常識や人間性の豊かさを身につけていけるような内容も盛り込んでいく必要がある。

以上のような本学の実習指導の基本的・総合的な考え方を踏まえ、実習のすべてがわかり、学生自身が主体的に実習を行えるような「保育実習の手引き」の作成を試みた。そして、学生・教職員ともに事前指導から実習、事後指導へと各学習段階で参考にすることができ、さらに実習現場、関係機関との相互理解と指導に活用できるものにすることを目標とした。

#### 2 保育実習の手引き作成要領

保育所、その他の施設の保育・養護の理念や基本的事項に基づき、7つの大項目に分け、実習に関する内容を幅広く基本的かつ専門的に理解できるようにした。すなわち「実習のあらまし」と「実習の準備」、「実習中」、「実習終了後」、「記録様式」、「文献」、「資料」を内容に盛り込み、実習段階を追って説明している。

##### (1)保育実習の手引きの構成

1 表紙：表題「保育実習の手引き」名古屋女子短期大学部保育学科	5 字数：40字×40行＝1600字
2 サイズ：A4	6 文体：「である」調、但し、引用は「です、ます」調
3 総ページ数：77ページ	7 統一文字：「保育園」→「保育所」、「乳幼児」→「子ども」、「保育者部屋」→「保育室」、「親、父兄」→「保護者」、「子どもの名前」→記号化 など
4 各目次項目のページ数	8 引用、文献の表記：資料の前にする
Ⅰ 実習のあらまし・・・・・・ pp1～9	9 資料：最後にまとめる
Ⅱ 実習の準備・・・・・・ pp10～21	10 裏表紙：学籍番号、クラス、氏名欄を入れる
Ⅲ 実習中・・・・・・ pp22～31	
Ⅳ 実習（終了）後・・・・・・ pp32～44	
Ⅴ 記録様式（1～21）・・・・ pp45～62	
Ⅵ 引用・参考文献・・・・・・ p63	
Ⅶ 資料・・・・・・ pp65～77ページ	

図1 「保育実習の手引き」の構成

「保育実習の手引き」の構成を図1に示す。

## (2)実習の手引きの項目・内容の視点と学習のポイント

保育実習の手引きの目次項目ごとに、「手引き」に示した内容の視点と学習のポイントをまとめると表1のように示される。

表1 実習の手引きの項目・内容の視点と学習のポイント

項目	内容の視点	学習のポイント
I 実習のあらまし	1 保育実習の意義と目的 (1)保育実習の意義 (2)保育実習の目的 ①利用者についての理解 ②児童福祉施設についての理解 ③保育士の職務と役割の理解 ④養護・保育（ケア）技術の修得 ⑤保育者としての自己理解	保育所、その他の施設の場において指導を受けながら、実際の専門的な実践活動の一部に責任をもって参加することによって、その体験をふりかえりつつ学習するところに意義・目的がある。また、体験を通して実践と理論を統合し、さらには、児童観、保育観、福祉観の形成に結びつけ、自ら専門性を追求していき、今後の課題を明確化するところにも意義がある。
	2 保育実習の位置づけ 保育実習の実施基準（平成15年12月9日）	① 保育実習、5単位必修科目：保育実習事前・事後指導1単位と保育実習（保育所）2単位10日、保育実習（施設）2単位10日 ②・保育実習Ⅱ（保育所）10日 ・保育実習Ⅲ（施設）10日 どちらか1つ選択必修科目2単位 限られた期間の中で必要かつ有効な実習を行わなければならない。又、実習段階を追って指導が行わなければならない。
	3 保育実習の過程と方法	実習の段階を①実習前（事前指導、事前訪問）、②実習中、③実習後（事後指導、反省及び報告会）と分け、具体的な活動例の表を提示して説明している。
	4 実習から何を学ぶか (1)事前・事後指導 ①事前指導 ②事後指導	専門職である保育士の養成課題の中で、大きな位置を占めている「保育実習」のあり方、事前・事後指導、保育所・施設におけるオリエンテーション、各実習の目標・ねらい・内容、等実習の段階別に理解できるようにする。 事前指導の目標・ねらい・内容 保育実習を円滑に進めていく知識・技能を事前に修得し、実習の目標・ねらい・内容を明確にし、実習体験をより充実させる。そして、実習後に評価、反省をして、今後の学習の課題に繋げていく。 事後指導の目標・ねらい・内容 実習終了後、実習の統括・反省・評価を行い、新たな学習目的を明確化する。また、人間性、社会性、専門性の側面に気づかせる。 保育所の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、保育所の機能と、そこでの保育士の職務について学ぶ。
	(2)保育実習（保育所）・保育実習Ⅱ（保育所） ①保育実習（保育所） ②保育実習Ⅱ（保育所）	i 保育所の保育を実際にも実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。 ii 家庭と地域の生活実態に触れて、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
	(3)保育実習（施設）・保育実習Ⅲ（施設） ①保育実習（施設） ②保育実習Ⅲ（施設）	住居型児童福祉施設の生活に参加し、子どもの理解を深めるとともに、住居型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。 i 児童福祉施設（保育所以外）、その他の福祉施設の保育を実際にも実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。 ii 家庭と地域の生活実態に触れて、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
II 実習の準備	5 実習の種類と時期 (1)実習の種類と時期	1年 保育実習（保育所） 1月 ～ 2月 2年 保育実習（施設） 4月 ～ 9月 保育実習Ⅱ（保育所） 9月 ～ 10月 保育実習Ⅲ 10月 ～ 3月
	6 実習の保育所・施設の決め方	9項目の規程を記入し、保育所・施設の内諾書を受け取り、その後決定された実習先が実習生に報告される。
	1 実習に関する書類について (1)実習に必要な記録・書類	全ての実習記録用紙が21項目の書類として1冊に綴じこんであり、2年間使用するもので実習前指導、実習中、事後指導の実習過程順に使用しよう分類して、一覧で示してある。なお提出先を区分し、活用しやすく工夫してある。保育所は黄色、施設はピンクの表紙に綴じ、提出先に提出する。 別紙にて1～21の記録用紙を提示している。
	(2)実習に関する記録・書類についての様式と記入の仕方	・実習生個人票（実習後返却してもらう） ・実習生出席簿（ ） ・細菌検査成績書
	(3)実習先に大学から郵送する書類	5項目から説明し、実践と理論の結び付きを考える手立てとし、実習・保育を客観的に振り返り深めるために記録の必要性を述べている。
	(4)実習生が事前訪問時、直接届ける書類 (5)記録や書類の必要性	13項目から説明し、本学の学生としての立場・保育士の立場・社会人としての立場から参加し、その自覚の必要性と心構えを人間性・社会性・専門性の視点からも具体的に気づかせている。
	2 実習生としての心構え	

	3 事前学習	事前学習として準備をしておくことは、実習時のゆとりや自信につながるので、十分事前学習しておくことを述べ、自主的な実習をめざすように述べている。特に指導案の立て方・手順を具体的に説明している。
	4 実習先の事前訪問 (1)事前訪問の目的 (2)事前訪問の内容及び方法 (3)大学の指導訪問教員に手渡す書類の記入について (4)事前訪問に向けた電話のかけ方 (5)実習の事前訪問時の確認事項の詳細	実習生が実習前に実習先を訪問し、実習が円滑に又、効果的に行えるよう打ち合わせをすることを目的としていることを説明している。 具体的に事前訪問の内容及び方法を知らせ、実習の参考にするよう促している。 実習先からの伝言について教員に適切に行うために必要事項の記入について説明し、示している。 電話のかけ方について、2例を示し、その心構えを実際に演習できるように示している。
	5 細菌検査の実施について	細菌検査は必ず実習前に実施して、検査成績書を実習園に提出する必要があること、その実施要領を6つあげ、説明している。なお大学の指定機関も案内している。
	III 実習中	
	1 実習時間、欠出席等について 2 保育実習の過程と記録の内容 (1)実習過程のポイント (2)実習過程における記録の内容と記録の様式	実習中の実習時間、欠席、欠席の補充、災害等の対応について示している。 保育実習は、目的達成のために、見学・観察実習、参加実習、指導実習の3過程に区分し、実習過程のポイントを述べている。 実習の3過程ごとに提出する記録様式を提示し、必要に応じて、実習先の指示に従うことを示している。
	3 実習指導訪問（大学教員による）について (1)実習生における意義 (2)指導訪問の意義 ①実習全体における位置づけ ②保育実習指導における「指導訪問」の意義 ③実習先の実習指導担当における意義 (3)指導訪問の方法 ①訪問の回数と時期 ②指導訪問の所要時間 ③指導訪問の形態 ④指導訪問時に使用する資料 (4)指導訪問の内容 ①実習生の様子の把握と指導と助言 ②実習の状況の確認と調整 ③子どもとの関係の確認と指導 ④実習先の職員との関係の確認と指導 ⑤指導訪問担当教員による実習先への指導訪問・教員 ⑥大学の教育方針や方法、実習先の実習指導のあり方と調整 (5)指導訪問の記録 ①根拠 ②記録することの意味 ③記録様式	実習中、養成校の教員が直接指導し、効果的な学びに誘導する。同時に、実習施設と要請校の連携と協働によって学生を支える。  保育実習期間中の指導訪問の意義を6つの視点から説明している。  大学教員の指導訪問の意義を4つの視点から説明している。  実習先の実習指導担当者の意義を4つの視点から説明している。 訪問の回数時期、所要時間と形態、資料について、具体的に分かりやすく基本的な姿勢を示している。  人間性、社会性、専門性などの視点から、実習生の様子、実習の状況、子どもとの関係、実習先の職員との関係の確認と指導について述べている。  指導訪問の意義、目的を実習先に伝え、必要に応じて実習生と施設職員との連携をとるように述べている。 大学の教育や実習指導のあり方等について実習先の意見を聞き、調整をとるよう述べている。 指導訪問の記録する法的根拠について述べ、記録様式と記入項目と視点を提示し、記録の必要性和教職員に記入の依頼をしている。
	4 実習中の事故について	実習中に発生した事故の対応の仕方や、全国保育士養成協議会実習総合補償制度について、障害事故等をカバーする制度であることを説明している。
	IV 実習（終了）後	
	1 実習中に要した費用 2 実習後学生が提出する書類について 3 実習先からの返送書類 4 実習先の反省 5 実習の最終日 6 実習評価票について 評価の基本的な考え方と保育実習（保育所）、保育実習（施設）、保育実習Ⅱ（保育所）、保育実習Ⅲ（施設）の評価内容と評価票 7 実習終了後 8 大学での実習報告会	実習終了後の費用、提出書類、反省会、実習最終日の行動、後始末について具体的に示し注意している。  実習全体の評価の基本的な考え方と、評価項目・内容について実習態度、知識・技能（人間性、社会性、専門性について）の評価基準の視点から明記し、保育所・施設に3段階評価の様式（評価票）を提示して保育所・施設に依頼をしている。  実習礼状の発送についてと実習後の諸注意を示した。
	V 様式記録	様式1～21
	VI 参考文献	幸・秋田（2005）で報告したため略す。
	VII 資料	紙面の都合上略す。
	・児童福祉施設の概要と実習内容 ・児童福祉施設の種類 ・保育所と幼稚園の比較 ・守秘義務の遵守 ・全国保育士会倫理 ・児童憲章	6つの資料を提供し、実習手引の補足資料として参考に資すよう添付した。

### 3 保育実習の手引きの内容

表1に概略を示した「手引き」の内容の中で、特に事前指導で重要な位置を占める、大項目Ⅰ「実習のあらまし」の4「実習から何を学ぶか」に示した「実習の目標・ねらい・内容」と、Ⅱ「実習の準備」の3「事前学習」、およびⅢ「実習中」の2「保育実習の過程と記録の内容」について、その考え方と記述の詳細を示すと以下のようである。

#### (1)実習の目標、ねらい、内容

実習の目標、ねらい、内容は、実習の段階・種別ごとに設定し示した。そのうち保育実習（保育所）の場合について取り上げ詳細を示す。

保育実習（保育所）の目標：保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。

保育実習（保育所）のねらい・内容を表2に示す。

表2 保育実習（保育所）のねらい・内容

	ねらい	内容
1	実習施設について理解を深める	実習する保育所の概要を理解する。 実習する保育所の設立理念と保育の目標を理解する。
2	保育所の状況や一日の流れを理解し、参加する	保育所の生活に主体的に参加し、一日の流れを理解する。 保育に参加し、保育所の状況を理解する。
3	乳幼児の発達を理解する	観察やかかわりを通して、乳幼児の遊びや生活の実態を理解する。 積極的に遊びの仲間に加わり、かかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。
4	保育計画・指導計画を理解する	保育計画の意義を理解し、保育の実態を学ぶ。 保育計画に基づく指導計画のあり方を学ぶ。 部分実習などにおける指導計画の立案を試みる。
5	保育技術を習得する	保育の実際を通して、保育技術を学ぶ。 保育の一部分を実際に担当し、子どもの援助・指導を行う。
6	職員間の役割分担とチームワークについて理解する	職員の役割分担を理解する。 保育士のチームワークの具体的な姿について学ぶ。
7	家庭・地域社会との連携について学ぶ	保育所と家庭との連絡ノートやおたより等の実際に触れ、その役割について理解する。 登所、降所の際の保育士と保護者とのかかわりを通して、家庭とのコミュニケーションのとり方を学ぶ。 地域における子育て支援事業の実態について理解する。
8	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ	日常の保育士と子どものかかわりを通して、子どもにとってより良い生活やかかわりのあり方を学ぶ。 子どもの最善の利益を追求する保育所全体の取り組みについて学ぶ。
9	保育士の倫理観を具体的に学ぶ	守秘義務が具体的にどのように遵守されているかを学ぶ。 個人のプライバシーが、具体的にどのように保護されているかを学ぶ。
10	安全及び疾病予防への配慮について学ぶ	保育所全体の安全に対する仕組みと個々の配慮を理解する。 一人一人の子どもに対する安全の配慮を理解する。 一人一人の子どもに対する衛生の配慮を理解する。

#### (2)事前学習

事前学習の意義、目的、目標、方法についてできるだけ具体的に記述した。その内容は以下の通りである。

実習の前や事前訪問時、実習担当クラスや具体的な予定が決まった人は、それに従って準備をしておく。実習に必要なものをそろえ、精一杯事前学習をしておくことは、実習時のゆとりや自信につながる。実習に不安な気持ちがあっても十分な事前学習・準備がしてあれば安心である。実習がより楽しみになることであろう。

①自己紹介の方法を考える

- i. 手作りの名札を工夫して作り、子どもが親しんで名前を呼べるようにする。安全ピンではなくマジックテープを使用するなど、特に安全には留意する。
- ii. 子どもとの初めての出会いを楽しくするために自己紹介の方法を工夫しておく。

②子どもの発達状況を学んでおく

実際に子どもとのふれあいを通して、子どもの心の内面や真の心を読み取るようにしていくには、子どもを観察する視点や発達を見る視点を学んでおくことが大切である。子どもの心に近づくよう努力する。

③保育教材を研究する

簡単なルールのある遊び、手遊び、絵本、紙芝居、人形劇、折り紙など季節に合った活動、壁面構成、ピアノ伴奏と歌の練習、手作り製作、実際に活用できる楽しい教材について研究をし、得意なものを習得しておく。新しい実習を目指す手段にもなるであろう。子どもとの楽しいふれあいのきっかけ作りや媒介物について研究しておく。

④事前・事後学習をよくしておく

課題レポート作成、ボランティア、ビデオ視聴等により学習する。

i. 演習Ⅰ【保育所】

実習の事前事後学習及び実習で学んだこと、気付いたことを、次のテーマに基づいてレポートにまとめ、実習に活かす。

- a. 保育所の役割、機能について
- b. 保育者の職務内容と役割について
- c. 養護及び生活指導面における保育者としての態度や活動について  
〔養護の意味と内容・生活の意味と内容・教育の意味と内容・生活指導の意味と内容〕
- d. 子どもの遊びと保育者の援助について  
〔子どもの遊びの実態・遊びの意味・遊びの教育的意義・遊びの発達〕
- e. 子どもの自発性を育てる環境について  
〔自発性の意味・子どもの自発性を育てる意義・自発性の発達・子どもにとって環境とは何か〕
- f. 保健・安全上留意することについて
- g. 乳児保育について
- h. 障害児保育について
- i. g、h以外の多様化する保育需要への対応〔一時保育・早朝延長保育等〕
- j. 家庭の育児相談・支援について
- k. 保育所・家庭・地域との連携について
- l. 今後の学生生活及び学習の課題について
- m. その他

上記以外の記入事項がある場合は、テーマを設定して記入する。

ii. 演習Ⅱ【児童福祉施設（保育所を除く）】

各施設の目的・役割・機能・職員の仕事の内容等についてレポートし施設の概要を学ぶ。

各自が実習施設について事前調査をし、なお体験後の事後報告を行う。主体的に施設でのボランティアを行い、理解を深めておく。

- a. 養育環境上問題があり保護を要する場合の施設〔乳児院・児童養護施設・母子生活支



援施設]

b. 心身に障害のある場合の施設〔知的障害児施設・知的障害児通園施設・盲ろうあ児施設・肢体不自由児施設・重症心身障害児施設〕

c. 情緒・行動に問題がある場合の施設〔情緒障害児短期治療施設〕

d. 児童自立支援施設

f. 児童厚生施設〔児童遊園・児童館〕

g. 学童保育

### iii. 演習Ⅲ【指導案の記入方法の学習】

指導実習（一日の部分実習、全日実習）の指導案を、実際に子どもの姿や保育援助、環境活動を想定して事前に演習しておく、特に保育所実習の研究保育に役立つ。活動を変えて数回指導案を立ててみると実状に則した指導の立案に近づき、理論と実践の関係に気づくであろう。そして、実践の反省もより確かなものになる。実際の場での指導案の立案は、子どもの実態に沿う計画であるので、貴重な学習である。（「指導案のたて方」の詳細は省略する。）

## (3)保育実習の過程と記録の内容

保育実習の過程と各過程における実習課題、またそれに即した実習記録の内容をできるだけ具体的に示した。さらに実習過程ごとに提出すべき書類と提出先を明確に示した。記述内容は以下の通りである。

保育実習は、その目的を達成するため、おおまかに見学・観察実習、参加実習、指導（責任）実習の3過程に区分される。

### ①実習過程のポイント

#### i. 見学・観察実習

実習の最初の段階として、実習施設の実態を総合的に理解することが目的である。この段階では、子どもと生活を共にしながら、保育者や子どもの動きを観察する。1日の生活の流れ、子どもの活動の様子、保育者の援助、環境構成などについて理解する。

#### ii. 参加実習

保育士の助手的な動きを心掛けながら保育活動に参加する。子どもの理解、保育士としての接し方を見習う。

#### iii. 指導（責任）実習

##### a. 部分指導実習

この段階では、実習生が主体となって1日の活動のある部分（例えば紙芝居・絵本を読むなど）を任されて実習する。子どもとの関わり方や部分実習のねらいが達成できたかどうかを自己評価し、助言指導を受ける。

##### b. 全日指導実習

1日（登所から降所まで）の保育を行う。その際、事前に指導計画を立てて、保育上の指導を受け、実施後にも助言を得る。

### ②実習過程における記録の内容と記録の様式

#### i. 見学・観察実習

##### \*様式7：実習予定表

月日・曜日、園名・クラス、主な実習内容、施設の行事、備考

##### \*様式8：実習先の概要

沿革、保育の目標及び方針、クラス編成・職員構成、その他、特記事項

\*様式9：周囲の環境

環境上の特色（立地条件等）、施設内外の環境

\*様式11：実習するクラスの様子

クラスの保育目標、クラスの子どもの様子、保育の目標の配慮事項、クラスの物的環境・見取り図、日課表（一日の活動の流れ）

\*様式12：見学・観察実習

実習のねらい、保育のねらい・主な活動、一日の生活や保育の内容（時間の流れと環境構成、子どもの活動・保育者の活動や援助、感じた事・気づいた事・考察した事）

見学・観察実習（本日の実習）から学んだ事

- a 子どもの理解（個別・集団の行動、子どもの興味、関心、子どもの特徴など）
- b 保育内容と方法（保育の形態と子どもの活動、環境構成との関わりなど）
- c 人的、物的な環境についての理解
- d 子どもの一日の活動と保育者の援助
- e 保育者の役割・職務内容
- f その他

一日の全体の反省及び課題

ii. 参加・指導実習

\*様式13：参加・指導実習

実習のねらい、保育のねらい・主な活動、一日の生活や保育内容（時間の流れと環境構成、子どもの活動・保育者の活動や援助、感じた事・気づいた事・考察した事）

参加・指導実習（本日の実習）から学んだこと

- a 保育のねらいと子どもの活動との関連
- b 環境構成及び再構成の仕方
- c 活動の生まれ方と、誘導の仕方
- d 活動を展開する場合の援助の仕方
- e 保育者の職務と役割
- f 家庭との協力、連絡
- g 指導案、記録の記述方法
- h その他

一日の全体の反省及び課題

\*様式14：子どもを見つめて（個人の記録）

子どもの内面・心の動きの変化など、感じたり、気づいたりしたことをありのままに記述する。個別または集団の中での子どもの様子を観察し、感じたり、気づいたり、考察したことがらを継続的に記録していく。ひとつの活動（例えば生活・遊び等）の変化、発展などを継続的に観察していく。

特定の個人についての記述をする場合、その固有名詞や特性についての表現方法には留意し、個人名の記入はしないこと、記入の仕方については事前に実習園・施設の指示を仰ぐこと。

\*様式16：指導案

子供の姿、本日の主なねらい、主な活動、指導・所見、時間の流れ、環境構成、予想される子どもの活動、保育者の援助及び主な留意点、実習後の評価・反省・考察



iii. 実習の反省

\*様式17：実習を終えて

一週間の実習で感じたこと・気づいたこと・発見したことを記入する。

実習前に計画した実習目標と照らし合わせ、達成したこと・反省したことや考察したことを記入し、今後の学習の課題につなげていく。事後学習に発展させる。

\*様式18：実習反省会の記録

先生方の指導の内容や反省したことをまとめる。

詳しく具体的に記入し、今後の学習に活かしていくようにする。

iv. 実習記録や書類について（実習先への提出）

本学の記録様式を使用するが、実習先独自の様式を使用する必要がある場合は、実習先の指示に従う。

実習に関する記録・書類の提出先等については「実習に関する記録・書類」を参考にする

こと。  
具体的な様式やその記入の仕方の説明は、「手引き」V記録様式（1～21）の通りである（図2-1、図3-1、図4-1参照）。

実習中、学生が実習先へ提出する書類

a. 事前訪問時

様式1 実習の目標と取り組み

様式2 実習生個人票（大学へ郵送で返却してもらう）

様式3 実習生出席表（訪問時に持参する）

細菌検査結果書（訪問日又は実習初日）

b. 実習中

様式4 実習指導訪問連絡用紙（実習訪問時に記入し、実習始めに提示又提出する記録）

様式5 実習までの履修状況表（ 〃 ）

様式7 実習予定表（ 〃 ）

様式8 実習園・施設概要（ 〃 ）

様式9 実習園・施設の周囲の環境（ 〃 ）

様式10 欠席届（やむを得ず欠席する場合のみ）

様式11 実習するクラスの様子（配属した全クラス記入）

様式12 見学・観察実習用記録用紙

様式13 参加・指導実習用記録用紙

様式14 子どもを見つめて（個人の記録）

様式15 自由記録用紙（必要に応じて）

様式16 指導案（指導実習日の数日前に記入し、指導を得ること）

様式17 実習を終えて（1週間毎に記入する）

c. 実習後

様式18 実習反省会の記録

**4 保育実習の手引き作成の工夫点**

手引き作成の全体的な工夫点は以下の通りである。

(1)専門職として資質の高い保育者を養成するために、保育実習は、保育士養成課程の中で大き

な位置を占めている。従って、国家資格として位置づけられた専門職としての保育者の資質を高め、また、今日の保育・養護・子育ての現状に即し、保育所・施設の子どもの最善の利益のためにも有効な実習の手引きとなるよう考慮した。

(2)保育実習（保育所・施設）、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲを基本的、かつ総合的、实际的に理解することのできる「保育実習の手引き」を作成した。さらに2年間を通して継続活用できるものとした。

なお、幸・秋田（2005）で報告した「実習の記録」の様式とその記入目的・方法を内容に含み、具体的に説明している。この「保育実習の手引き」1冊を学生自身が事前学習・体験学習に活用して、自主的な実習の取り組みが促されるよう考慮した。

(3)事前指導、実習中、事後指導の過程を追って7項目の大見出しをつけて説明し、実習先でも実際に活用できるように作成を試みた。

(4)学生、保育所・施設と大学が連携・協力して実習が円滑に行えるような目標、内容、方法についての工夫をしている。

(5)基本的な実習の考え方・目的・ねらい・内容が、実習担当者の意見や研究視点と一致していたため、社団法人全国保育士養成協議会専門委員会編（2005）の「保育実習指導のミニマムスタンダード」の一部を参考に取り入れ、実習の目的・ねらい・内容、保育実習評価内容と評価票、実習指導訪問などの項目について作成した。

これらの項目については、特に実習先にもよく理解を得て、学生が基本を押さえた上で自分なりの個性を生かした実習に発展させていくきっかけ作りとなるよう配慮し作成した。

(6)理論と実践の統合や他教科の統合にも有効に活用できるよう工夫を試みた。

(7)実習後についても、学生と実習担当者の振り返りの材料となり、今後の実習課題を明確にし、実習指導の充実・向上を図れるような手引きとなるよう作成を試みた。

## 5 記録の事例

「保育実習の手引き」に示した実習記録の記入内容（図2-1、図3-1、図4-1）と対照させ、学生が保育実習（保育所）実施時、「手引き」を活用し記録した記入事例を図2-2、図3-2、図4-2に示す。なお保育実習（施設）、保育実習Ⅱは現在実習途中であるので、今後の研究で継続して取りあげたい。

## V 要約及び課題

名古屋女子大学短期大学部保育学科が設立され、1年近く経過した中で「保育実習の手引」を作成し、2005年12月20日初版発行するに至った。保育実習（保育所・施設）と保育実習Ⅱの指導に活用した。

本研究では、学生、実習指導担当者、実習先の実習指導者を対象とした「保育実習の手引」を作成して、実習の基本的な考え方、目的、時期、内容、方法について明確にし、実習のあり方を概観した。その結果、本学科の保育実習のあり方を確立し、他者に伝え理解を得ることも可能になった。

半年間、手引きを使用し指導を行った結果としては、実習生の自主的な実習に有効となりつつある。現場から、「学生指導や保育実践にも活用でき、全実習過程が詳細に理解できる行き届いた手引きである」と高評を得る一方、記録の一部修正の必要性も拝聴している。保育実習（施設）と保育実習Ⅱの事後指導後、再検討をする予定である。しかし、まだ1年未満の活用であ

保育実習における手引き作成に関する研究

記入日 年 月 日		年 月 日	
実習するクラスの様子		氏 名	
(実習中に入った全クラスの様子を記入する)		氏 名	
実習クラス	組 ( 歳児 )	クラス人数	名
担任	先生	先生	先生
指導者印	印		
クラスの保育目標	クラスの目標がわかるように書く		
クラスの子ども	<div> <div> ① 目標として登録から達成までの経過と活動の記入のこと  ② 年齢保育、児童保育なども含めて記入しておく  ③ 曜日別活動  ④ 一日の中心となる活動  ⑤ 自由な遊びも書く </div> <div> ① 目標として登録から達成までの経過と活動の記入のこと  ② 年齢保育、児童保育なども含めて記入しておく  ③ 曜日別活動  ④ 一日の中心となる活動  ⑤ 自由な遊びも書く </div> </div>		
保育の配慮事項	クラスの運営又はグループ個人の保育で配慮すべき事項を記入する クラスの物理的環境の見取り図 (保育室内) 備品、道具、教材等の配置もわかりやすく記入し、実習の参考にする (子どもと環境とのかわかりやすい生活環境、かわりの修正等について記入して置き、環境設定の整理、環境の整理や指導計画作成・実践に役立つ)		

図2-1 様式11実習するクラスの様子(「手引き」より)

記入日 年 月 日		年 月 日	
実習するクラスの様子		氏 名	
(実習中に入った全クラスの様子を記入する)		氏 名	
実習クラス	ひよこ組 ( 歳児 )	クラス人数	9 名
担任	先生	先生	先生
指導者印	印		
クラスの保育目標	① 目標として登録から達成までの経過と活動の記入のこと ② 年齢保育、児童保育なども含めて記入しておく ③ 曜日別活動 ④ 一日の中心となる活動 ⑤ 自由な遊びも書く		
クラスの子ども	① 目標として登録から達成までの経過と活動の記入のこと ② 年齢保育、児童保育なども含めて記入しておく ③ 曜日別活動 ④ 一日の中心となる活動 ⑤ 自由な遊びも書く		
保育の配慮事項	クラスの運営又はグループ個人の保育で配慮すべき事項を記入する クラスの物理的環境の見取り図 (保育室内) 備品、道具、教材等の配置もわかりやすく記入し、実習の参考にする (子どもと環境とのかわかりやすい生活環境、かわりの修正等について記入して置き、環境設定の整理、環境の整理や指導計画作成・実践に役立つ)		

図2-2 様式11実習するクラスの様子(学生の記入事例)

記入日 年 月 日		年 月 日	
実習するクラスの様子		氏 名	
(実習中に入った全クラスの様子を記入する)		氏 名	
実習クラス	組 ( 歳児 )	クラス人数	名
担任	先生	先生	先生
指導者印	印		
クラスの保育目標	クラスの目標がわかるように書く		
クラスの子ども	<div> <div> ① 目標として登録から達成までの経過と活動の記入のこと  ② 年齢保育、児童保育なども含めて記入しておく  ③ 曜日別活動  ④ 一日の中心となる活動  ⑤ 自由な遊びも書く </div> <div> ① 目標として登録から達成までの経過と活動の記入のこと  ② 年齢保育、児童保育なども含めて記入しておく  ③ 曜日別活動  ④ 一日の中心となる活動  ⑤ 自由な遊びも書く </div> </div>		
保育の配慮事項	クラスの運営又はグループ個人の保育で配慮すべき事項を記入する クラスの物理的環境の見取り図 (保育室内) 備品、道具、教材等の配置もわかりやすく記入し、実習の参考にする (子どもと環境とのかわかりやすい生活環境、かわりの修正等について記入して置き、環境設定の整理、環境の整理や指導計画作成・実践に役立つ)		

図3-1 様式16指導案(「手引き」より)

記入日 年 月 日		年 月 日	
実習するクラスの様子		氏 名	
(実習中に入った全クラスの様子を記入する)		氏 名	
実習クラス	組 ( 歳児 )	クラス人数	名
担任	先生	先生	先生
指導者印	印		
クラスの保育目標	クラスの目標がわかるように書く		
クラスの子ども	<div> <div> ① 目標として登録から達成までの経過と活動の記入のこと  ② 年齢保育、児童保育なども含めて記入しておく  ③ 曜日別活動  ④ 一日の中心となる活動  ⑤ 自由な遊びも書く </div> <div> ① 目標として登録から達成までの経過と活動の記入のこと  ② 年齢保育、児童保育なども含めて記入しておく  ③ 曜日別活動  ④ 一日の中心となる活動  ⑤ 自由な遊びも書く </div> </div>		
保育の配慮事項	クラスの運営又はグループ個人の保育で配慮すべき事項を記入する クラスの物理的環境の見取り図 (保育室内) 備品、道具、教材等の配置もわかりやすく記入し、実習の参考にする (子どもと環境とのかわかりやすい生活環境、かわりの修正等について記入して置き、環境設定の整理、環境の整理や指導計画作成・実践に役立つ)		

図3-2 様式16指導案(学生の記入事例)

時間	環境構成	子どもの活動	保育者(園・実習生)の活動及び援助	実習生の感じた事、考察した事
本日の実習を総えて				
<p>本日の実習から学んだこと</p> <p>本日の実習のならいと子どもとの活動に参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育者の役割と子どもの活動との関係</li> <li>② 保育者の役割と子どもの活動との関係</li> <li>③ 活動の進め方と、指導の仕方</li> <li>④ 活動を進める際の注意点の理解の仕方</li> <li>⑤ 保育者の役割と指導</li> <li>⑥ 保護者の協力、連絡</li> <li>⑦ 保育者、保護者の役割の理解</li> <li>⑧ その他</li> </ul>				
<p>一日の全体の反省及び課題</p> <p>一日の実習の全体を振り返り、実習への取り組みや態度として反省すべき点、今後の実習での課題とすべき点などを記述する</p>				
指導・所見		記入者名		
<p>実習園・施設の実生児の保育・所見などを記入していたが、先生方からいただいた助言に対しては、次の日の記録の中で、または口頭でお礼を申し上げ、その後の実習を機能的に実践しているようにする</p> <p>時間経過や感想に対してコメントをいただいた時も、同様にする</p>				

図4-1 様式13参加・指導実習用記録用紙 表・裏（「手引き」より）

[illegible]

図4-2 様式13参加・指導実習用記録用紙 表・裏 (学生の記入事例)

るので、定着するまで指導に活用する努力も必要である。

今後も、学生、保育者、関係者の意見を参考にし、手引の検討・研究を行い、現代社会の保育の現状に即した、専門性の高い、理論と実践を深める「知の学び」につながる保育実習の手引きにしていきたい。すなわち、学生がより具体的な実習を目指すことを促し、現場や指導担当にも活用しやすい、専門性の高い「保育実習の手引」を目指して、修正を加えていくことが課題である。

## VI 謝辞

本研究における「保育実習の手引き」を作成するにあたり、貴重な資料・情報をご提供下さいました愛知県内の保育所・施設の皆様方および同朋大学社会学部の井上薫先生、栗田春香さんに心よりお礼申し上げます。

本研究の「保育実習の手引き」作成にあたっては、本学職員の島田有紀さんの協力を得ましたことを記し、謝意を表します。

## VII 文献

- 1) 安部恵・鈴木みゆき編著：教育・保育実習安心ガイド，ひかりのくに（2005）
- 2) 岡崎女子短期大学実習センター編：実習の手引き，岡崎女子短期大学幼児教育学科（2000）
- 3) 岡崎女子短期大学幼児教育学科：幼稚園・保育実習の手引き，
- 4) 社団法人全国保育士養成協議会専門委員会編：保育実習指導のミニマムスタンダード，社団法人全国保育士養成協議会（2005）
- 5) 全国保育協議会・保育施策委員会編：あなたの園の自己点検－保育の質と信頼感を一層高めるために－〔「第三者評価基準」の解釈と運用〕，社会福祉法人全国社会福祉協議会（2002）
- 6) 第31回愛知県保育研究集会発表論文集，（名古屋）（1987）
- 7) 玉井美知子監修，高玉和子・浅見均編著：資格取得に対応した保育実習，学事出版（2002）
- 8) 同朋大学社会福祉学部保育士課程：保育実習の手引き，
- 9) 林陽子総編集，秋田房子・大岩みちの他編：保育者へのステージ保育・教育実習から学ぶ一，愛智出版（2003）
- 10) 平岩定法編：改訂教育・保育ニューハンドブック，宣協社（1995）
- 11) 保育士養成講座編集委員会編：改定・保育士養成講座2005第10巻保育実習，社会福祉法人全国社会福祉協議会（2005）
- 12) 待井和江・福岡貞子編：現代の保育学6 保育実習・教育実習〔第4版〕，ミネルヴァ書房（2005）
- 13) 松本峰雄編著，醍醐定徹・丹治智義他共著：四訂教育・保育・施設実習の手引，建帛社（2004）
- 14) 百瀬ユカリ著：よくわかる保育所実習，創成社（2005）
- 15) 森上史朗・大豆生田啓友編：新・保育講座⑩幼稚園実習 保育所・施設実習，ミネルヴァ書房（2004）
- 16) 幸順子・秋田房子：保育実習における記録様式作成の試み（第1報），名古屋女子大学紀要第52号人文・社会編（2005）